

Eureka IX

六年制通信 No.21 令和3年10月22日(金)号

防災

先週号の「おすすめ本」のコーナーでも書きましたが、〇〇デーとか〇〇週間というのはいつごろから流行りだしたのでしょうか。〇〇デーなんか語呂合わせで遊んでいるとしか思えないものも多くあります。ま、それも楽しみなのかもしれませんが。しかし〇〇のところが理解できないこともよくあります。爪切りの日て何ですの。1月7日ですけど。1月8日はイヤホンの日。その日はイヤホンをどうにかするのでしょうか。2月3日は不眠の日。これもわかりませんね。1月25日は中華まんの日。食べろ、と。10月1日はコーヒーの日。飲め、と。11月12日は皮膚の日。保湿クリームを塗れ、と。12月13日はビタミンの日。これ、私の誕生日ですけど。ビタミン剤でも飲め、と。いったい何がどうなっているのでしょうか。

さて、しかし、〇〇の日の中でも9月1日の「防災の日」は特別で、学校教育の中でも必ず取り上げられる大切な日です。関東大震災が発生した日が1923年(大正12年)9月1日だったことに由来します。世の中には地震を知らない国もあるそうですが、我が国は地震をはじめ台風、洪水、猛暑、津波、火山など、いわゆる自然災害のニュースを耳にしない年はありません。記憶に残っている災害は数多くあるのですが、1991年雲仙普賢岳で発生した火砕流の映像は今でも鮮明に覚えています。火砕流という言葉も初めて聞きました。1993年の北海道奥尻島地震があつて1995年1月の阪神淡路大震災。あの大地震も君たちの生まれる前の出来事なのですね。私たちには消えることのない記憶ですけど。2004年には新潟中越地震もよく覚えています。そして、東日本の大震災が2011年3月11日。ちょうど翌日に国公立大学の後期試験を控えていたので受験生は慌てたことでしょう。横浜国立大学が後期入試を取りやめセンター試験の成績で合否を出したのを覚えています。御嶽山が噴火したのは、この3年後でしたね。2016年には熊本地震があつて、修学旅行にも影響が出ましたね。その他にも、台風の被害、豪雨による浸水、がけ崩れなどたくさんありました。雨の降り方も昔と違って一点集中、昔はなかったゲリラ豪雨という呼び方も普通になってしまいました。避難勧告や避難指示もよく耳にします。テレビでは「命を守る行動を」と呼びかけるようになりました。災害、しかも極端にひどい災害が身近に迫っているように思います。

南海トラフ地震がいつくるか。神のみぞ知る、なのでしょうが最大震度7、30メートルの津波と言われています。ちょっと想像がつかないレベルですが「いつか来る」ではなく「今来たら」と考えておくことが、自分の命を守ることに思えます。

地震は、発生によって家族と一緒にいられるか、学校で私たちと一緒にいる

か、君が一人で行動しなければならないか、それらが変わってきます。阪神淡路が早朝6時ごろ、東日本が午後2時46分（しばらく学校でこの時間に黙禱していたから覚えています）です。阪神淡路の発生時、学校は無人だったでしょうね。東日本では学校にいたがゆえに失われた命がありました。言葉もありません。

学校では避難訓練を行います。私は、大きな声では言えませんが、これを実施したからといって防災について君たちのスキルが上がるとは思いません。自教室で担任の先生が前にいて避難経路を確認して、それからアラームが鳴る。はい、机の下に隠れて、なんて、第一、そう都合よく地震が来るはずがないではないですか。

登校中かもしれませんよ。自転車に乗っているかもしれません。バスか電車か、あるいは歩いているか。休日で映画館にいるかもしれません。デパートで買い物中かも。エレベーターの中かもしれません。前も後ろも人でいっぱいのエスカレーターのちょうど真ん中にいるかもしれません。駅のホームかもしれません。もちろん授業中かもしれない。体育が終わって着替えている最中かもしれない。トイレかもしれない。グラウンドから校舎に入ろうとしている瞬間かもしれない。下校中かもしれない。

私は防災はきわめて個人的な問題ではないかと考えています。登下校だけを考えても兄弟姉妹でない限り完全に一致する生徒は一人もいないのですから。親との連絡方法をはじめ、こういうときはこうすると家族で決めておかなくてははいけません。どこに公園があってどこに建物として安全なガソリンスタンドがあるのか。学校の校舎のようにガラスが降ってくるような建造物はどこにあるか。もちろんその近くは通ってはいけません。常に頭を守るものを携帯しているか。そういったことを確認し、家族で共有することが防災だと思います。学校での訓練など、ほんの些細なものです。

それから、もしも避難生活を余儀なくされたとしても、その場で自分のできることを考えて、老人や子どもたち、病気の人たちのために働きなさい。いいですね。

今週のおすすめ

・ 柚月裕子 『ミカエルの鼓動』 (文藝春秋)

柚月さんの本は『臨床真実』以来、全部読むことに決めているので今回も早速楽しみました。今回のテーマは機械を使った心臓手術。機械の名はミカエル。Michaelと書きます。天使ミカエルは英語だとマイケル、フランスではミシェルですね。フィンランド語ではミカ。日本ではこの発音の名前を持つ女子がいますが、フィンランドに行って「私はミカです」と言えば、私は天使と名乗ったことになるのですね。

ミカエルを使いこなす天才心臓外科医の西條と開胸手術の天才真木。一人の少年の手術をめぐる二人は対立する。お互いの技量を認め合い、医療に対する姿勢も共通する二人、さらに子供のころに経験した不幸もよく似ている。そんな二人が対立する理由は何か。そして少年は西條と真木、どちらの手術を望むのか。そしてミカエルに不具合があるかもしれないと知らされた西條がとった行動は。どうです。読みたくなかったですよ。私は、そうですねえ、真木の方に共感するかな。

BGMは サザンオールスターズ の YaYa (あの時代を忘れない) でした…。